

プレFDとは

プレFD (Faculty Development) とは、これから大学教員になろうとする大学院生・ポストドクター等のキャリア支援を目的とした活動のことです。教育開発・学習支援センターでは、2022年度より博士後期課程在学中の学生に向けてプレFDプログラムを実施しています。

本号では、2025年度春学期のプレFDプログラムの実施報告と、本制度修了者の声をご紹介します。



2025年度春学期プレFDプログラム修了者の取り組み概要

2025年度春学期は、1名の修了者が輩出されました。以下、取り組み概要をご紹介します。

①学部授業参観

以下の授業を参観し、授業実施における工夫や手法等を体験しました。

「ボルボックス生物論A」植木紀子（法学部教授）：2025年7月15日（火）実施

②Lステゼミ

授業運営の実践の場として、Lステゼミの講師として登壇しました。

日時：2025年6月26日（木）13:20～14:20（60分）【対面実施】

テーマ：「生命とは何か？」—いろいろな人の生命観を知り自分の生命観を見つめなおすためのダイヤモンドランキング活用

内容：「生命とは何か？」という問いは、生命科学の研究だけでなく映画や小説、宗教など、さまざまな分野で取り上げられる重要なテーマであり、生命に関わるすべての人にとって、深く向き合う価値のある問いです。

今回のLステゼミでは、「ダイヤモンドランキング」という手法を使って、多様な人々の生命観に触れながら、自分自身の「生命とは何か」という問いを見つめ直していきます。この体験を通じて、理科的な知識だけでなく、創作や表現など、幅広い分野に活かせる視点を養うことを目指します。

参加者数：12名

③授業リフレクションのための学生による授業参観

事前に研修を受けた学生FDスタッフに上記②のLステゼミを参観してもらい、授業の進め方等に関する学生視点の意見をフィードバックしてもらいました。



Lステゼミ実施の様子



「プレFDプログラム」修了者インタビュー

2025年7月29日（火）に、本プログラム修了者へインタビューを実施しました。昨年のインタビューでは「授業参観やLステゼミ実施に向けて事前のアドバイスが欲しかった」との声が寄せられていたため、今回はプログラム実施前に、申請のあった秋山さんに対し担当教員から説明とアドバイスを行っていました。そのため今回のインタビューでは、アドバイスを踏まえたプログラム実施の振り返りができ、今後の展望についても前向きなお話を伺うことができました。

対象者：秋山浩一朗さん（理工学研究科生命機能学専攻博士後期課程1年）

インタビュアー：高橋五月教授（人間環境学部・LFC学習サポートユニット・サブリーダー）

出席者：荒井弘和教授（文学部・LFC学習サポートユニット・リーダー）

平田雄大（大学院事務部大学院課長・LFC学習サポートユニット・メンバー）

土屋貴之（学務部学務課長・LFC学習サポートユニット・メンバー）



インタビューの様子（左：秋山さん、右：高橋教授）

■インタビュー内容（抜粋）

（1）参加に至った背景

もともと教育に興味があり、教職課程で学んだ内容を実践的な経験として落とし込めるのを知りたいと思い申し込みました。

（2）各取り組みを終えての感想

①学部授業参観

ベストティーチャー賞を受賞した植木先生が、文系の学生に実験形式の授業をされているとお聞きし、理系学生向けの授業との違いを知りたいと考え参観を決めました。学期後半の授業を拝見したのですが、学生が声をかけながら、テキパキと能動的に実験を進めている様子に驚かされ、学期を通した授業の構成や、声を出しやすい雰囲気作りの重要性に気づかされました。また、実験操作の「見せ方」も学ぶ点が多かったのですが、コロナ禍でのオンライン授業の経験が活かされているとお聞きし、様々な場面での創意工夫が後に生きてくるのだと学びました。

（3）プログラムの改善点・要望

授業参観やLステゼミは複数回実施できるとより改善を図れて良いと思います。また、オンデマンド授業を撮って公開し、フィードバックをもらう仕組みやサポートがあれば、教員を目指す学生が取り組みやすく、教育力向上につながると思います。

②Lステゼミ

今回の授業の目的は、答えのない問いについて考えること、そして自分とは異なる考えを持つ人の意見に触れることの面白さを、グループワークを通じて実感してもらうことでした。「生命とは何か」というテーマのもと、ダイヤモンドランキングを用いて議論する中で、生命科学部の学生とは全く異なる視点を持つ皆さんと多様な意見を交わすことができ、私自身も新たな生命観を得ることができました。至らぬ点多々あったと思いますが、それでも今回の経験は非常に有意義で、印象深い授業となりました。

③授業リフレクションのための学生による授業参観

学生スタッフに授業についてフィードバックしてもらうのは、軌道修正のチャンスであり、良い機会でした。自身で気づいていなかったことももちろん、こだわって準備した点についても意見をもらうことができ、それが正しかったのかを見つめなおすきっかけになりました。